

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名 地域高規格道路 鹿児島東西幹線道路 一般国道3号 鹿児島東西道路 <small>かごしまとうざい</small>	事業 一般国道 区分	事業 国土交通省 主体 九州地方整備局																																		
起終点 自：鹿児島県鹿児島市田上八丁目 <small>かごしましたがみ</small> 至：鹿児島県鹿児島市上荒田町 <small>かごしましうえあらたちょう</small>	延長 3.4km																																			
事業概要 鹿児島東西道路は、九州縦貫自動車道、南九州西回り自動車道及び指宿スカイラインの結節点となる鹿児島ICと直結し、広域ネットワークを形成するとともに、中心市街地へのアクセス機能の強化、交通混雑の緩和や交通安全性の向上、救急医療活動の支援等を目的とした事業である。																																				
H13年度事業化	H12年度都市計画決定 (H25年度変更)	H14年度用地着手	H17年度工事着手																																	
全体事業費	約808億円	事業進捗率	約32%																																	
		供用済延長	2.2km																																	
計画交通量	20,700～47,700台/日																																			
費用対効果分析結果 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">B/C</td> <td style="width: 15%;">事業全体</td> <td style="width: 15%;">1.4</td> <td style="width: 15%;">総費用</td> <td style="width: 15%;">(残事業)/事業全体</td> <td style="width: 15%;">413/708億円</td> <td style="width: 15%;">総便益</td> <td style="width: 15%;">(残事業)/事業全体</td> <td style="width: 15%;">781/1,018億円</td> <td style="width: 15%;">基準年</td> <td style="width: 15%;">平成25年</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(残事業)</td> <td>1.9</td> <td>事業費</td> <td>407/698億円</td> <td>維持管理費</td> <td>6.5/11億円</td> <td>走行時間短縮便益</td> <td>623/828億円</td> <td>走行経費減少便益</td> <td>96/107億円</td> <td>交通事故減少便益</td> <td>62/82億円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	B/C	事業全体	1.4	総費用	(残事業)/事業全体	413/708億円	総便益	(残事業)/事業全体	781/1,018億円	基準年	平成25年		(残事業)	1.9	事業費	407/698億円	維持管理費	6.5/11億円	走行時間短縮便益	623/828億円	走行経費減少便益	96/107億円	交通事故減少便益	62/82億円												
B/C	事業全体	1.4	総費用	(残事業)/事業全体	413/708億円	総便益	(残事業)/事業全体	781/1,018億円	基準年	平成25年																										
	(残事業)	1.9	事業費	407/698億円	維持管理費	6.5/11億円	走行時間短縮便益	623/828億円	走行経費減少便益	96/107億円	交通事故減少便益	62/82億円																								
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.3～1.7（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.4～1.5（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.3～1.5（事業期間±20%）																																				
事業の効果等 ①広域ネットワークの形成 ・九州縦貫自動車道や他の主要幹線道路と一体となって広域ネットワークを形成 ②交通混雑の緩和 ・並行する国道3号武岡トンネルや（主）鹿児島東市来線の旅行速度の向上 ・建部神社前交差点の渋滞長の削減 ③交通安全性の向上 ・現道交通量が転換・減少し、交通渋滞に起因する追突事故の減少 ④救急医療活動の支援 ・第三次救急医療施設（鹿児島市立病院）への救急搬送の支援及び救急搬送時間短縮による救命率の向上 ⑤物流効率化の支援 ・鹿児島IC～鹿児島港間のアクセス性の向上による定時性の確保や輸送コストの削減 ⑥観光産業の支援 ・鹿児島IC～新幹線鹿児島中央駅間のアクセス時間の短縮により観光周遊性や速達性の向上																																				
関係する地方公共団体等の意見 鹿児島県知事や鹿児島県市長会等で構成される①鹿児島県開発促進協議会（会長：鹿児島県県議会議長）、鹿児島商工会議所や鹿児島経済同友会等で構成される②鹿児島東西・南北幹線道路建設促進期成会（会長：鹿児島市長）等により早期整備の要望を受けている。（①平成25年11月、②平成25年6月）																																				
県の意見 当該道路については、鹿児島インターから鹿児島市街地への交通アクセス機能を強化するとともに、交通混雑の緩和を目的とした道路であり、重要な道路と認識しております。昨年9月に新武岡トンネルが開通し、渋滞の状況等も変化しており、今後とも県や鹿児島市と調整を図りつつ、事業を推進していただき																																				

たい。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

鹿児島市の人口及び一世帯あたりの自動車保有台数は、事業採択時以降同程度で推移している。並行現道の(主)鹿児島東市来線の交通量は4万台/日を超えており、混雑度は約1.4である。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成24年度末の事業進捗率は約32%であり、そのうち用地進捗率は100%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

- ・地質条件変更に伴うセグメント（外壁）の強化による増 【約92億円増】
- ・近接構造物対応の地盤改良（薬液注入）追加による増 【約61億円増】
- ・換気所の安全性の向上及び管理機能強化による増 【約5億円増】
- ・新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上、事業の効果及び進捗状況、事業評価監視委員会における審議、地方公共団体等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。